

◆ キヤノン / キヤノンマーケティングジャパン ● 4K/120P 撮影対応のデジタルシネマカメラ “EOS C300 Mark III” を発売

新開発の「DGO (Dual Gain Output) センサー」を搭載

キヤノンは、映像制作機器 CINEMA EOS SYSTEM の新製品として、新開発の「DGO センサー」採用により広いダイナミックレンジを実現するとともに、4K/120P のハイフレームレート記録に対応したデジタルシネマカメラ “EOS C300 Mark III” を 2020 年 6 月下旬に発売する。



EOS C300 Mark III * 「CN-E85mm T1.3 L F」装着時

新製品は、映像制作や放送用コンテンツ制作など、さまざまな撮影現場で好評を得ている「EOS C300 Mark II」(2015 年 9 月発売)の後継機種です。従来機種から基本性能を刷新するとともに、上位機種「EOS C500 Mark II」(2019 年 12 月発売)と同じく、ユーザーが撮影現場に応じて自由にカスタマイズできるモジュールデザインを採用し、幅広い映像コンテンツの制作に対応している。

■ プロの映像制作に応える多彩な映像表現

1 つの画素出力に対して異なるゲイン※¹ で出力することで低ノイズの HDR 動画を生成する新開発の 4K スーパー 35mm の CMOS センサー「DGO センサー」により、明暗差の大きい環境でも、像ズレがなく、豊かな階調を持つ 4K/60P の高画質な映像を撮影することができる。また高速処理が可能な映像処理プラットフォーム「DIGIC DV 7」を搭載し、スロー再生時でも滑らかな映像表現ができる 4K/120P のハイフレームレート記録に対応するなど、プロの映像制作に応える多彩な映像表現を実現する。

■ さまざまな撮影スタイルに対応できる優れた拡張性

「EOS C500 Mark II」同様にユーザーが撮影現場に応じて自由にカスタマイズできるモジュールデザインを採用しており、小型軽量を生かしたドローン撮影から、拡張ユニット(別売り)を装着した複数台のカメラによる撮影まで、さまざまな撮影に対応します。またマウントキット(別売り)により、ユーザー自身で EF マウントから、EF シネマロックマウントや PL マウントに交換できる。

■ 4K/HDR 映像の制作をサポートする 2 つのビデオフォーマット

映像の情報を維持しながらデータサイズを軽くできる「Cinema RAW Light」を採用し、外部レコーダーを使用せずに RAW データを本体内部に記録できる。さらに、動画データを圧縮し効率的に記録する「XF-AVC」にも対応し、編集作業の効率化をサポートする。また CFexpress Type B カードと UHS-II 規格の SD カードを使用可能※²。

製品名: EOS C300 Mark III 希望小売価格: オープン価格

発売日: 2020 年 6 月下旬

※¹ 画素からの出力信号の増幅度。

※² 「Cinema RAW Light」は、CFexpress Type B カードにのみ記録可能。

● EF シネマレンズ「CINE-SERVO レンズ」シリーズのラインアップを拡充

8K カメラに対応する光学性能と高倍率の 10 倍ズームを実現

キヤノンは、EF シネマレンズの新製品として、CINE-SERVO レンズ※³ “CN10 × 25 IAS S/E1 (EF マウント)” と “CN10 × 25 IAS S/P1 (PL マウント)” を、2020 年 7 月上旬に発売する。



新製品は、8K カメラに対応する光学性能と高倍率の 10 倍ズームを実現し、1.5 倍のエクステンダーをレンズ本体に内蔵した「CINE-SERVO レンズ」シリーズの EF シネマレンズ。8K カメラに

CN10 × 25 IAS S/E1 (EF マウント)
CN10 × 25 IAS S/P1 (PL マウント)

対応する高い光学性能を生かして、4K カメラでも高品位な 4K 映像の撮影ができる。肩担ぎが可能な軽量設計に加え、放送用レンズ同様の操作性を実現する着脱可能なドライブユニットを標準装備しており、放送コンテンツ制作用途から、映像制作用途まで幅広いニーズに対応する。

■ 8K カメラに対応する光学性能

特殊低分散ガラスを用いたレンズや大口径非球面レンズを採用し、それらを最適配置する独自の光学設計技術により、色にじみや色収差を良好に補正し、ズーム全域で画面中心から周辺部まで 8K カメラに対応する光学性能を達成している。1.5 倍の内蔵エクステンダー使用時でも、8K カメラに対応する光学性能を維持しており、高品位な 8K 映像を撮影できるとしている。

■ 幅広い焦点距離を持つ 10 倍ズーム

映像制作市場で業界標準となるスーパー 35mm 相当サイズの大判センサーを搭載したカメラに対応するレンズとして、焦点距離 25-250mm をカバーする 10 倍ズームを実現している。内蔵エクステンダー使用時は、ズーム域を焦点距離 37.5-375mm に切り替えられるほか、35mm フルサイズセンサーに対応するレンズとして使用することもできる。

■ 着脱可能なドライブユニットや快適な撮影を実現する多彩な機能

着脱可能なドライブユニットを標準装備し、ドライブユニットを取り外すことにより映像制作市場で主流のマニュアル操作にも対応します。また、“CN10 × 25 IAS S/E1 (EF マウント)” は、CINEMA EOS SYSTEM のデジタルシネマカメラ※⁴ との組み合わせにより、動画撮影に適した滑らかな AF 動作と高い追従性を実現した「デュアルピクセル CMOS AF」などが使用できる。

製品名: CN10 × 25 IAS S/E1 (EF マウント)

希望小売価格: オープン価格 発売日: 2020 年 7 月上旬

CN10 × 25 IAS S/P1 (PL マウント)

※³ 大判センサーを搭載したカメラに対応する、ドライブユニットを標準装備したレンズの総称。

※⁴ 対応機種は、「EOS C700 FF」(2018 年 7 月発売)、「EOS C700」(2016 年 12 月発売)、EF マウント交換時の「EOS C700 GS PL」(2016 年 12 月発売)、「EOS C500 Mark II」(2019 年 12 月発売)、「EOS C300 Mark III」(2020 年 6 月下旬発売予定)、「EOS C300 Mark II」(2015 年 9 月発売)。機種によりカメラ側のファームアップが必要。

キヤノン株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社

● 問い合わせ先

キヤノンお客様相談センター 050-555-90006

● CINEMA EOS SYSTEM ホームページ:

canon.jp/cinema-eos



●業務用 17 型 4K ディスプレイ「DP-V1710/DP-V1711」を高輝度化

新たなファームウェアの有償アップグレード対応を開始



キヤノンは、業務用 4K ディスプレイ 2 製品 (DP-V1710/DP-V1711) を対象に、高輝度化を実現するファームウェア^{※5}の有償アップグレード対応を 2020 年 6 月下旬に開始する。これにより、HDR 化が進む映像制作現場のニ

ズに応える。

今回、ファームウェアを提供する業務用 17 型 4K ディスプレイは、6G-SDI 端子搭載の「DP-V1710」(2017 年 2 月発売)と、12G-SDI 端子搭載の「DP-V1711」(2018 年 4 月発売)の 2 製品。

4K の高画質性能を持ち、映像制作に求められる HDR 表示に必要な各種規格や方式に対応しながら、持ち運びが可能な小型サイズを実現し、撮影現場や放送局、中継車などで活用されている。

映像制作業界では、HDR 化の流れに伴い、映像の最終画質確認を行うリファレンスディスプレイのみならず、撮影現場で用いられる小型・軽量のディスプレイにおいても、高輝度化のニーズが高まっている。こうした背景から、キヤノンは業務用 17 型 4K ディスプレイ「DP-V1710/DP-V1711」を対象に、最大輝度が向上するアップグレードライセンス(有償)を提供する。今回の新たな有償アップグレードを適用することで、ディスプレイに「ブースト(コントラスト)」設定が追加され、「オン」選択時^{※6}に最大・全白輝度が 300cd/m²から 1,000 cd/m²^{※7}に向上する^{※8}。

また、「オフ」選択時はローカルディミング制御となり、最大・全白輝度が 300 cd/m²から 600 cd/m²^{※7}に向上する。これにより、高輝度部の階調表現力が向上し、明るい撮影現場、スタジオや中継車などで高輝度の映像を確認する際に役立つ。

今回の有償アップグレード対応により、最大・全白輝度 2,000cd/m²を実現した 31 型の「DP-V3120」(2019 年 11 月発売)から、17 型の 4K/HDR ディスプレイまで、31 型、24 型、17 型の 4K/HDR ディスプレイのラインアップで HDR 映像制作に関する規格や運用ガイドラインで定められている 1,000 cd/m²を満たす高輝度(最大・全白輝度)を実現し、撮影から編集まで 4K/HDR 映像制作のワークフローを強力にサポート。

キヤノンは今後も、ファームウェア提供により既存製品の機能を向上・拡充し、ユーザーの利便性を高めていくとしている。

※5 製品本体を制御するためのソフトウェア。

※6 バックライトの発光量を画面全体で制御するグローバルディミング制御となる。

※7 輝度値は、AC 電源駆動時の標準値で保証値ではありません。

※8 2018 年 6 月に提供した有償アップグレードを適用済みの場合は、「ブースト(コントラスト)」設定が追加済み。

今回の有償アップグレードの適用により、「オン」選択時に最大・全白輝度が 600cd/m²から 1,000 cd/m²に向上。

* 詳細については、キヤノンのディスプレイホームページをご参照ください。

●業務用 4K ディスプレイを用いた映像制作の利便性を向上

ユーザーのニーズに対応した新たなファームウェアを無償提供



キヤノンは、業務用 4K ディスプレイ 7 製品 (DP-V1710/DP-V1711/DP-V2410/DP-V2420/DP-V2421/DP-V2411/DP-V3120) を対象に、各種機能・性能の向上を図るファームウェア^{※9}を 2020 年 6 月下旬より無償提供する。キヤノンの業務用 4K ディスプレイは、映像制作現場のニーズに対応するファームウェアの提供により、これまで定期的な機能を拡充している。2018 年 6 月から提供している HDR モニタリングアシスト機能は、業界で権威のある HPA^{※10}の 2018 エンジニアリング・エクセレンス・アワードを受賞するなど、ユーザーからも定評がある。今回のファームウェア提供により、ユーザーの利便性をさらに高め、映像制作現場を強力に支援するとしている。

■映像制作業界で広く使われているファイル形式「.cube」の LUT に対応

映像制作の現場では、LUT (Look Up Table) と呼ばれる対応表を用いて色域や階調などを一括変換し、編集を行うワークフローが普及している。今回新たに提供するファームウェアにより、映像制作業界で広く使われているファイル形式「.cube」の 3D-LUT/1D-LUT ファイルの読み込みに対応する。これにより、色味の調整を行うカラーグレーディングにおいて、ユーザーが求める映像にするための作業を効率化し、利便性が向上する。

■RED Digital Cinema 社製デジタルシネマカメラとの連携強化

RED Digital Cinema 社製デジタルシネマカメラの映像信号を HDR (PQ) /SDR に変換する LUT 2 種類をディスプレイ本体内にプリセットする。これにより、ユーザー自身で LUT を用意する必要なく、撮影した映像を HDR や SDR で表示できるため、映像確認時の作業性が向上するとしている。

■HDR モニタリングアシスト機能など編集作業をサポートする機能のさらなる拡充

撮影や編集作業時に、「ITU-R BT.2020」色域の映像において、ユーザーが任意で指定したピクセルの xy 色度値と色度図^{※11}上の座標位置を確認することができ、入力信号の不正信号検出や接続間違いなどのエラー履歴を最大 1,000 件まで USB メモリーに書き込めるため、いつどのようなエラーが発生したかを追跡することが可能。さらに、最大・全白輝度 2,000cd/m²を実現した「DP-V3120」(2019 年 11 月発売)では、2,000cd/m²と 1,000cd/m²など異なる輝度の映像を、ボタン一つで簡単に左右に並べて比較表示することができる。これらの機能の拡充により、高品位な 4K/HDR 映像の編集作業をより効率的に行うことに貢献する。

※9 製品本体を制御するためのソフトウェア。

※10 Hollywood Professional Association の略。

※11 色を数値化し、xy 座標空間上に表現したものの。

●問い合わせ先：キヤノンマーケティングジャパン株式会社

イメージングソリューション営業部

03-3740-3304

●ディスプレイホームページ：canon.jp/v-display



◆アストロデザイン：8K クロスコンバータの最新機種を発売

アストロデザイン株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：鈴木茂昭）は、2K、4K、8Kの各フォーマットに対応し3D LUTによる色域・ダイナミックレンジ変換を搭載した新しいクロスコンバータ SC 8229 を発売した。



SC8229は、8K (7680 × 4320、4K (3840 × 2160)、HD (1920 × 1080) の各種映像信号をアップコンバート、ダウンコンバートするクロスコンバータ装置。8K/4K と HD の同時制作におけるシンプルなシステム構成を実現するため、解像度と色域・ダイナミックレンジ変換に一台で対応した。

「SR Live for HDR」対応 オプションも用意している。

*「SR Live for HDR」はソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社の提唱する、HDR/SDR の映像を同時かつ効率的に制作することが可能なソリューション。

【変換イメージ】



番組制作のロケや中継、放送局のスタジオサブや中継車、映像編集室での使用用途など、幅広い映像制作の現場に提案する。

型名：SC 8229

発売日：2020年3月下旬発売中

定価：2,700,000円（税抜）

製品情報 <https://www.astrodesign.co.jp/product/sc-8229>



◆HDMI2.1 ソーステスタ VA-1849 を発売

アストロデザイン株式会社（本社東京都大田区、代表取締役社長：鈴木茂昭）は、HDMI2.1 および HDCP2.3/1.4 の自動検査に対応した新しい HDMI ソーステスタ VA-1849 を発売した。

2017年に策定された HDMI2.1 規格は、48Gbps の帯域を備え 8K60p、4K120p といった高解像度・高リフレッシュレートの映像伝送や新機能が盛り込まれている。

アストロデザインは、HDMI プロトコルアナライザ VA-1847 HDMI2.1 コンプライアンステスト対応を 2019年に発売、その生産ライン用モデルとして新たに VA-1849 を開発した。高い信頼性を備えた検査機器として、テレビ、プレーヤー、ケーブル等、HDMI2.1 対応機器の生産ラインや品質管理の現場において必要とされる様々な項目の自動検査を実現する。



特長

- ・ HDMI2.1 Sink 機能
- ・ HDMI2.1 Source 機能
- ・ HDCP2.3/1.4 対応
- ・ DSC 対応
- ・ Video、Audio 信号 検査機能
- ・ EDID/SCDC の受信確認
- ・ CEC/DDC ラインの確認
- ・ InfoFrame/Packet の確認
- ・ コマンド制御で検査項目を自由に設定可能

型名：VA-1849

発売日（国内）：2020年3月下旬（発売中）

定価：1,500,000円（税抜）

製品情報

<https://www.astrodesign.co.jp/product/va-1849>



アストロデザイン株式会社

超高精細映像技術、リアルタイム高速デジタル信号処理技術をベースに、8Kをはじめとする高度な技術を要する分野において、さまざまなハードウェアソフトウェア製品を展開。放送業界やディスプレイ業界など映像業界全般において、オンリーワンの製品を提供し続けます。

【製品に関する問い合わせ先】

〒145-0066 東京都大田区南雪谷 1-5-2

アストロデザイン株式会社事業本部（営業）

TEL：03-5734-6301 FAX：03-5734-6104

◆アナログ・デバイスズ：「チップワンストップ オンライン展示会 2020 春」に参加

バーチャル製品展示とオンラインセミナーで LTspice について解説

想像を超える可能性を実現するアナログ・デバイスズ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：馬渡 修、以下アナログ・デバイスズ）は、5月12日（火）～6月19日（金）までチップワンストップが開催する「チップワンストップ オンライン展示会 2020 春」に参加する。同社の加速度センサー「ADXL362」を搭載し、3軸の加速度値をリアルタイムにスマートフォンに表示する「Leafony プラットフォーム」をバーチャル展示すると共に、5月28日（木）と6月11日（木）に『シミュレーションと実践を LTspice と M2K でやってみよう』と題したオンラインセミナーを行う。本セミナーは、製品情報やソリューションについてライブ配信でご紹介し、お客様からの質問にもその場で回答する形式と

なっている。

セミナーでは、電気電子系の学生や新人エンジニアを対象に、シミュレーションと実機を融合させた実験方法をレクチャーする。

LTspice で回路を作成し、シミュレーションで動作確認する。

その後、ADALM2000 を使用して実機動作確認の方法を実演する。LTspice を PC にインストールし、ADALM2000 とパーツキットを購入の上でセミナーを聞きながら手で操作すると、より理解が深まる。セミナーへの参加には申込みが必要(参加費無料)。申込み方法等、詳しくはこちらのページを

https://www.chip1stop.com/sp/event/online_expo2020_spring

LTspice®は高性能なSpiceシミュレーション・ソフトウェアで、スイッチング電源回路にとどまらず、アナログ回路全般の設計に活用できる回路シミュレータ。LTspice はアナログ・デバイセズのウェブサイトで無償提供されており、1991年のリリース以来機能強化を重ね、ダウンロード数は1,500万を超えている。

「チップワンストップ オンライン展示会 2020 春」開催概要

開催期間：2020年5月12(火)～6月19日(金)

展示会詳細：

https://www.chip1stop.com/sp/event/online_expo2020_spring

最新製品・ソリューション (5月12日公開予定)

アナログ・デバイセズオンラインセミナー開催概要

『シミュレーションと実践をLTspiceとM2Kでやってみよう』

講師：アナログ・デバイセズ株式会社 戸上晃史郎 (LTspice Users Club 事務局長)

5月28日(木) 16:00～16:45

https://zoom.us/webinar/register/WN_vUoMinwfQ-uYeY9G90VJTQ

6月11日(木) 16:00～16:45

https://zoom.us/webinar/register/WN_af565nWZSqIDNOylmyXzqQ

※オンラインセミナーの参加には事前の参加申込(参加費無料)が必要となる。

アナログ・デバイセズについて

アナログ・デバイセズは1965年の創業以来、高性能アナログで世界をリードし、さまざまな技術的課題を解決してきました。世界にインパクトを与えるイノベーションを実現するために、私たちは最先端のセンシング、計測、パワーマネジメント、通信、信号処理技術で、アナログとデジタルとの懸け橋となり、世界の動きをありのままに描き出します。

想像を超える可能性を — アナログ・デバイセズ

<http://www.analog.com/jp>

アナログ・デバイセズの公式 Twitter (日本版)

@AnalogDevicesJP

◆『第5回 関西放送機器展 (KBEE)』開催延期のご連絡

新型コロナウイルスの感染拡大防止に向け、緊急事態宣言が発令されている現在の状況を鑑み、本展の主催構成団体である関西放送機器展実行委員会(構成:アジア太平洋トレードセンター・テレビ大阪・テレビ大阪エクスプロ)は本展の開催可否について検討を進めた結果、ご出展者・ご来場者・関係機関の皆様の健康を守ることを最優先に考え、7月の開催を延期することを決定いたしました。

延期する会期に関しては「2020年秋・冬」を目指し調整の上、発表いたします。

ご来場予定の皆様、ご出展者の皆様、開催に向けてご協力いただいております関係各位には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

関西放送機器展事務局 〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (株) テレビ大阪エクスプロ内

TEL:06-6944-9919 FAX:06-6944-9912

E-mail:kbe@tv-osaka.co.jp <https://www.tv-osaka.co.jp/kbe/>

◆新4K8K衛星放送 視聴可能機器台数 2020年3月までの集計値

(一社)放送サービス高度化推進協会(A-PAB)では新4K8K衛星放送の視聴可能機器台数を集計し、報道関係各位に向け毎月報告している。今月発表分(3月分)は、前年同月比で約2倍と着実な伸びを続けている。

今後とも新4K8K衛星放送の更なる認知度向上、普及促進にご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

新4K8K衛星放送 視聴可能機器台数 単位：千台

分類		2月末累計	3月分	3月末累計
直接受信	① 新チューナー内蔵テレビ	2272	226	2499
	② 外付け新チューナー	242	2	244
	③ 新チューナー内蔵録画機	367	38	405
CATV受信	④ 新チューナー内蔵STB	734*	58	792
合計		3615*	324	3940

※①、②、③：JEITA発表出荷台数、④：JCTAヒアリングによる設置台数 (JEITA：一般社団法人電子情報技術産業協会 JCTA：一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟) 千台未満を四捨五入し表記しているため累計や合計が表記数字の計と一致しないことがあります
月別推移は次頁に掲載しております。

※④は2月分が修正されております。上記④及び次頁2020年2月分の④と合計数字がそれぞれ1千台増加しております。(イタリック体*表記部分)

【A-PAB コメント】

視聴可能機器台数は、昨年の3月には未公表だった新チューナー内蔵録画機を除き、昨年3月の13.7万台から今年3月の28.6万台へと約2.1倍の大きな伸びとなりました。

この時点では新型コロナウイルスの影響が次第に大きくなりつつあったものの、むしろ東京オリンピック・パラリンピック延期が決まる3月24日までの「オリンピック期待」に加えて「新商品の市場投入」などにより、大幅な出荷増になったと見られます。

引き続き、新型コロナウイルスの市場への影響を含めて注意深く見守ってまいります。



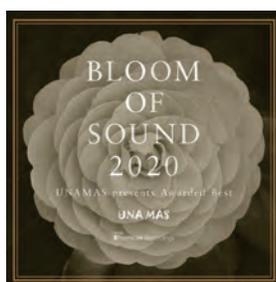
◆シンタックスジャパン：RME Premium Recordings レーベルからの新譜「Bloom of Sound」Blu-ray / MQA-CD を発売

この度、弊社では RME Premium Recordings レーベルからの新譜「Bloom of Sound」Blu-ray/MQA-CD を発売する。

本作品は、ハイレゾ・サラウンド音源の黎明期よりハイクオリティな作品をリリースし続けている音楽レーベル「UNAMAS」が、日本で最も権威のあるプロフェッショナルな音楽録音賞である「日本プロ音楽録音賞」において受賞した作品のみを集めた珠玉の作品集。

2013年から2019年までの全受賞作品6タイトル（2015年からは5年連続受賞。そのうち2作品は最優秀賞）を網羅したこのアルバムは、「ART」「Technology」「Engineering」という

3つの要素を融合させ、常に録音芸術シーンを牽引しつづけている Mick Sawaguchi 氏の録音に対する情熱に溢れている。細部にまで注意が払われ、現場の空気を余すことなく捉えた録音は、イマーシブオーディオ作品のリファレンスとして、今後の録音芸術史のマイルストーンとなるであろう。



本アルバムは、Blu-Ray ディスクと CD の 2 枚組となっている。

本 Blu-ray ディスクは、ミュンヘンの msm スタジオが、Lindberg Lyd と共同で開発した「Pure Audio Blu-ray」フォーマットにて制作されており、各曲が以下のそれぞれのフォーマットで収録されている。

- 2ch ステレオ (192kHz/24bit)
- 5.1ch サラウンド DTS-HD Master Audio (192kHz/24bit)
- 11.1ch Dolby Atmos
- 11.1ch Auro 3D (96kHz/24bit)

付属の CD は、MQA でマスタリング処理された、CD プレイヤーで再生可能なハイレゾ作品。再生機が MQA に対応している場合は自動的にデコードされ、PCM 176.4kHz/24bit にて作品を楽しむことができる。また、MQA に対応していない再生機器の場合でも、通常の CD フォーマットである 44.1kHz/16bit にて作品を楽しむことができる。



■ 製品ページ：

<http://a06.hm-f.jp/cc.php?t=M730506&c=16679&d=356f>

- 価格：4,000 円 (税抜)、4,400 円 (税込)
 - レーベル：RME Premium Recordings
 - JAN：4589473709697
 - 販売元：株式会社エムアイセブンジャパン
 - 発売日：2020年4月29日(水)
- 株式会社シンタックスジャパン
107-0052 東京都港区赤坂 2-22-21
<https://synthax.jp/>
tel: 03-3560-6645 fax: 03-3568-8825

◆富士ソフト：デジタルテレビ向けミドルウェア「FSDTV Middleware for ARIB」「シャープ AQUOS 8K テレビ」に搭載

富士ソフト株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役 社長 執行役員：坂下 智保）は、当社のデジタルテレビ放送受信機向けミドルウェア「FSDTV Middleware for ARIB」が、2020年4月25日に販売を開始するシャープ株式会社（本社：大阪府堺市、代表取締役会長兼社長 戴正呉、以下 シャープ）の「AQUOS 8K テレビ」に新 4K8K 放送対応のために搭載されている。本製品は、2019年7月27日発売の「AQUOS 4K テレビ」に新 4K 放送対応のために搭載されており、新 4K8K 衛星放送における 8K 放送に対応したテレビへの搭載は初となります。

当社のデジタルテレビ放送受信機向けソフトウェア FSDTV シリーズは、2007年に発売して以来、これまで多く活用いただき、累計 5,000 万台の機器に搭載された。「FSDTV Middleware for ARIB」は、OS/ハードウェア/SoC を選ばない高い汎用性と豊富な開発実績により、デジタルテレビやセットトップボックスなどの開発期間の短縮とコスト削減を実現できるソリューションだ。

富士ソフトは、今後もシャープをはじめとするメーカー各社のビジネス拡大に貢献するデジタルリビングソリューションを展開している。

【デジタルテレビ放送受信機向けミドルウェア「FSDTV Middleware for ARIB」】

<https://www.fsi.co.jp/dtv/middleware/index.html>

<シャープの FSDTV Middleware for ARIB 搭載テレビ>

新 4K8K 放送対応モデル (2020年4月25日発売)

AQUOS 8K CX1 シリーズ - 2 モデル

<https://jp.sharp/aquos/products/cx1/>

新 4K 放送対応モデル (2019年7月27日発売)

AQUOS 4K BN1, BL1, BJ1 シリーズ - 8 モデル

<https://jp.sharp/aquos/lineup/bn1.html>

<https://jp.sharp/aquos/lineup/bl1bj1.html>

< FSDTV Middleware シリーズの製品概要 >

商品名 FSDTV® Middleware for ARIB

概要 ARIB 規格に適合した地上デジタル / 衛星デジタル放送に最適化した固定受信機向けミドルウェア

商品名 FSDTV® Middleware for IPTV

概要 国内 IPTV 規格に適合した固定受信機向けミドルウェア

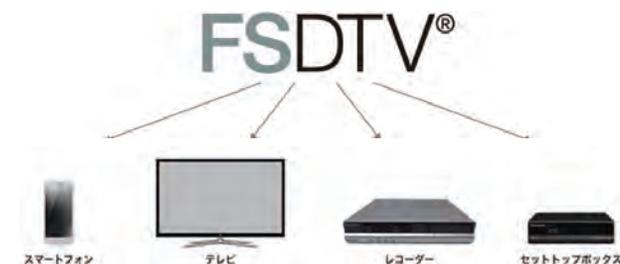
商品名 FSDTV® Mobile

概要 ARIB 規格に適合した地上デジタル放送 (1seg/Full-seg 放送) に最適化したモバイル機器向けアプリケーションパッケージ

※ ARIB：Association of Radio Industries and Businesses (一般社団法人電波産業会)

※ FSDTV は富士ソフトの登録商標です。

※ その他、記載している会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。



◆ 2020年4月24日:本日本「パシフィコ横浜ノース」が開業しました!

国内最大規模 2,300 人の着席パーティーが可能な多目的ホールと 42 室の会議室

『パシフィコ横浜ノース』は、国内最大規模となる約 6,300 m² の多目的ホール※¹ と大中小 42 室の会議室からなる MICE ※² 施設です。特に、多目的ホールは、海外の先進的 MICE 施設の大型バンケットホールに倣う仕様となっており、立食では 5,000 名、着席では 2,300 名の大規模パーティーの開催が可能となる。これにより、国際・国内会議や大型インセンティブトラベルなど、さらなる市場のニーズに対応できるようになった。

なお、4月24日にパシフィコ横浜ノースを開業したが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言に伴い臨時休館となっている。事態収束後には、イノベーションが生み出される、人とひとの交流の“場”となり、日本を代表する MICE 施設として、より一層の経済効果を生み出していくと考えている。

■パシフィコ横浜ノース 施設概要

「汀(みぎわ)」をイメージした外観をもち、国内最大規模約 6,300 m² の多目的ホールは、海外の先進的 MICE 施設のバンケットルームに倣っており、大中小 42 室の会議室と併せて、3,000 名規模の大規模な会議が開催できる複合 MICE 施設です。既存施設 (国立大ホール・会議センター・展示ホール・ホテル) とは、ベデストリアンデッキで接続している。

正式名称: 横浜みなとみらい国際コンベンションセンター (Yokohama Minato Mirai International Convention Center)

通称: パシフィコ横浜ノース (PACIFICO Yokohama North)

所在地: 横浜市西区みなとみらい一丁目 1 番 2 号

アクセス: みなとみらい線「みなとみらい駅」より徒歩 5 分

階数: 地下 1 階、地上 6 階 延床面積: 約 47,000 m²

主要施設:

・多目的ホール (1F): 約 6,300 m² (国内最大規模、床面カーペット仕様、最大 8 分割可能、天井高 10m)

【最大収容人数】スクール 3,600 名、シアター 6,000 名、立食 5,000 名、丸卓 (着席) 2,340 名

・会議室 (2F ~ 4F): 大中小 42 室 計 6,185 m² (面積 78 ~ 587 m²、天井高 2.4 ~ 5.7m)

【収容人数】スクール 32 名 ~ 288 名、シアター 56 名 ~ 504 名

・駐車場 収容台数 普通車 152 台

・付帯サービス施設 (2F): 総合案内、礼拝室、カフェ (ドトールコーヒESHOP)、コピー&プリントコーナー

開業日: 2020年4月24日 (金)

URL: <https://www.pacifico.co.jp/visitor/floorguide/tabid/679/Default.aspx>

動画 URL: <https://youtu.be/8Eo97FEIPcg>

※ 1 多目的ホール

ここでは、海外の先進的 MICE 施設の大型バンケットホールに類する、カーペット仕様で様々な利用目的に応じて多目的に使用できるホールを指しております。

※ 2 MICE とは

Meeting (企業ミーティング)、Incentive Travel (報奨・研修旅行)、Convention (国際会議)、Exhibition/Event (展示会 / イベント) といったビジネスイベントの総称。

◆府中技研:新製品「FM 放送共通予備送信装置 (可搬型) CST-100 型」を発表発売



カバーオープン時



カバー収納時

株式会社府中技研は、「FM 放送共通予備送信装置 (可搬型) CST-100 型」を発表発売する。

CST-100 型 FM 放送共通予備送信装置は、親局からの放送波を受信する高性能 FM 受信装置 MR-200 型と周波数及びパワーが可変できる SA-100SS (1W ~ 100W) の組み合わせにてコンパクトで持ち運び可能な設計となっている。

複数箇所の中継用送信機の共通予備機として、あるいは非常用として、発電機・バッテリーとの組み合わせ運用 (オプション) も可能であり、幅広くかつシンプルに運用できる優れた装置となっている。

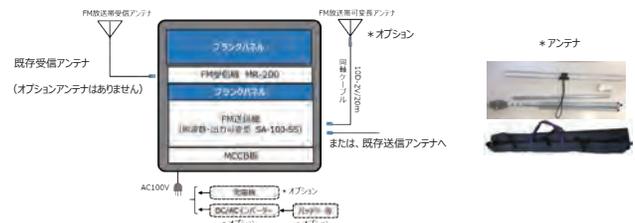
■ FM 放送共通予備 (可搬型) 送信装置 CST-100

概要

- FM 放送局予備用 (可搬型) 送信システム。
- FM 受信機 (MR-200) で受信・復調した音声 FM 送信機 (SA-100-SS) で変調して送出する。
- FM 受信機 (MR-200) FM 放送帯の周波数を任意に受信選択設定できる。
- FM 送信機 (SA-100-SS) FM 放送帯の送信周波数と送信出力 (1W ~ 100W) を任意に設定できる。

特徴

- 送信周波数だけでなく送信出力の異なる中継所が複数箇所存在する場合の予備装置として、また、トラブル発生時に本機を持ち運んで使用することが容易にできる。
 - 既存音声回線が遮断された場合に親局の電波が受信可能であれば放送可能。
 - 軽量・可搬型でキャスター付きなので手軽に持ち運びできる。
- <オプション>
- 発電機や車載バッテリー等と DC/AC インバーターと組み合わせれば停電時でも放送可能。
 - 100W 対応 (76 ~ 106MHz の内 1 波) 可変長アンテナを用意している。



仕様

受信周波数/入力レベル	76~95MHzの1波/30~90dBμV (50Ω TNC型)
送信周波数	76~95MHzの1波 (50Ω 不平衡/N型)
送信出力	1~100W *10W未満はATTを使用
電源電圧	AC 100V ±10% 50/60Hz
消費電力	送信機: 500VA (100W時) 受信機: 20VA
使用温度範囲	-10°C ~ 45°C
外形寸法	500 (W) × 405 (H) × 550 (D)mm (突起物含まず)
質量	約30kg (アンテナ別)

* 送信機 (SA-100-SS) および FM 受信機 (MR-200) の詳細定格・性能は、個別の仕様書を参照願います。



<http://www.fg-go.co.jp/>

◆パナソニック：BS4K・110度CS4Kチューナーを2基内蔵した液晶テレビ“4K ビエラ”HX850シリーズ2機種（49V型、43V型）を6月26日より発売する。

パナソニック株式会社は、BS4K・110度CS4Kチューナー※1を2基内蔵した液晶テレビ“4K ビエラ”HX850シリーズ2機種（49V型、43V型）を6月26日より発売。

新4K衛星放送の開始から1年以上が経過し、4K番組も増々充実している。加えてUltra HDブルーレイや4K対応のビデオ・オンデマンドサービスなど4Kコンテンツ市場もさらに拡大している。同社は、拡大する4Kコンテンツを臨場感あふれる画質/音質で楽しんでもらえる本シリーズを東京2020オリンピック・パラリンピック公式テレビとして開発した。

本シリーズは新4K衛星放送の高画質機能をさらに充実させ、明るく鮮やかに4K番組を楽しめる。

新4K衛星放送のHDR（HLG）画質を向上させるため「AI HDRリマスター」を進化させ、明るく高コントラストな映像を実現しました。加えてプロの映像制作用マスターモニターにも採用されている、3次元カラーマネジメント回路（3D-LUT）を搭載した「ヘキサクロマドライブ」により明部から暗部まで色と階調を忠実に再現。また「オブジェクト検出 倍速表示」技術搭載でスポーツなどの激しい動きもなめらかにクリアに表示します。音質面では30Wのダイナミックサウンドシステムに加えて立体音響システム「Dolby Atmos（R）（ドルビーアトモス）」に対応し、テレビのスピーカーのみで上下左右から音に包み込まれる迫力の立体音響が楽しめる。

さらに、好評の地震に強く倒れにくい、吸着機能付きの「転倒防止スタンド※2」を採用した。

同社は本シリーズを通じ、4K高画質をさらに高レベルに引き上げるとともに、迫力サウンドや使いやすさを盛り込んだ快適なリビングテレビを提案するとしている。

<特長>

1. 臨場感あふれる画質・音質でスポーツ番組もその場にいるかのように楽しめる

- (1) ビエラ独自の映像処理技術であらゆる映像を色鮮やかで高コントラストな映像に
- (2) 激しい動きの映像もなめらかに表示「オブジェクト検出 倍速表示」
- (3) 頭上を含む上下左右から音に包み込まれる迫力の立体音響「ドルビーアトモス」に対応

2. 地震に強く、倒れにくい「転倒防止スタンド※2」

3. BS4K・110度CS4Kダブルチューナー内蔵で※1

外付けハードディスク（別売）※3への新4K衛星放送の裏番組録画※4にも対応



“4K ビエラ” HX850 シリーズ（49V型）



“4K ビエラ” HX850 シリーズ（43V型）

※1：BS4K・110度CS4K放送およびBS・110度CSデジタル放送の受信には視聴する放送に対応した衛星アンテナおよび受信設備が必要。有料放送は加入申し込みと契約が必要。本製品は、株式会社ACCESSのNetFront Browser BE v2 DTV Profileを搭載している。

※2：転倒防止スタンドは、いかなる条件においても転倒・落下しないことを保証するものではない。

また、当社は、災害等によるテレビの転倒・落下に伴う損害については補償いたしかねる。

使用上の注意を十分ご確認ください。使用のこと。

※3：対応ハードディスクなどの詳細については、当社ホームページを参照。

※4：BS4K・110度CS4K放送の2番組同時録画はできない。テレビの動作状態により機能に制限がある場合がある。

◎パナソニックはワールドワイドオリンピックパートナー及びワールドワイドパラリンピックパートナー。

【問い合わせ先】

ビエラご相談窓口：フリーダイヤル 0120-878-981

（9時から18時まで）

パナソニックホームページ：

<https://panasonic.jp/support/tv/connect/>

